

第 31 回規制改革会議 農業ワーキング・グループの概要
(テーマ：生産資材調達及び農産物流通の現状と課題について)

1. 平成 28 年 2 月 4 日に開催された規制改革会議農業ワーキング・グループにおいて、
 - ・ 有限会社藤岡農産 藤岡代表取締役
 - ・ 農事組合法人ながさき南部生産組合 近藤会長理事
 - ・ 株式会社庄内こめ工房 齋藤代表取締役
 - ・ 農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク 下山事務局長兼常勤理事の 4 名の生産者を招いてヒアリングを実施。

2. 主な内容は別紙のとおり。

第31回規制改革会議農業ワーキング・グループ(平成28年2月4日)概要

分類		内容
資材	資材価格	資材価格は、各地域の農協が決める価格が基準となっているのが現状(農機は例外)。
		出荷用の段ボールは強度や撥水性などの性能により価格が2～3割異なる。地域差も大きい。
		肥料の種類が多すぎる。集約することで価格を下げられるのではないか。
		ビニールや農薬などの資材はJAよりも資材店の方が割安に買える。
	調達ルート	メーカーから資材を買うときに、直接ではなく、常に商社や一次卸、二次卸等の伝票を通して納入させてくれと言われる。
		共通部品や肥料成分等の規格を統一して、インターネットで農家が自由に購入できる仕組みが必要。
		国境を越えて海外からも各種資材が自由購入できるシステム等の確立が必要。
		大規模法人経営の場合は、資材をメーカーから直接調達できる仕組みを構築すべき。
	価格比較	TPP参加国をはじめ、資機材価格を調査・公表し比較できるシステムの確立が必要。
		農機を含む生産資材の地域間の小売値を比較可能なシステムの確立が必要。
流通慣行	情報化社会の中で空車情報をオープンにし、混載を可能にするなどトラック輸送の効率化が必要。	
	流通の低コスト化に向け、使い捨ての段ボール流通からコンテナ出荷への転換が必要。	
農機	農機スペック・部品	トラクターや動力部の部材にメーカー間の互換性がない。
		国内メーカーの農機は不必要な機能が多く高価。栽培品目に合わせたシンプルで安価な機種があるべき。
		耐用年数(おおむね10年、コンバインは7年)が過ぎると部品の調達ができなくなり、買い替えが必要となっている。
		中古農機はほとんどアジアに売られているが、国内にも中古農機のマーケットを整備すべき。
		農機が故障した際の修繕費が高額。
		日本の農機は旧来の国内農業に対応した強度しかなく、耐久性が低い。日本のコンバインは大農場で使うと5年で故障する。
		農業の大規模化が進んでいないため、小さな水田農家でも高額な機械投資をしている。
	補助金	農機具メーカー同士が競争すれば3割程度値下げできるはずなのに、メーカーと、定価で販売する農協への補助金のようになっている。
		補助金を申請するために複雑な書類を山のように出さなければならず、個人の農業者にはとても書けない。
	建築規制	大型農機を格納するハウス倉庫も建築基準法の規制が厳しい。
農機メーカー	国内では農機がほぼ二社の寡占状態になっている。	
レンタル化	一昨年から、稲作農機のレンタル事業を独自に開始した。レンタル化によるコスト低減の実証に取り組んでいる。(農水省「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確率実証事業」を活用)	
農協サービス	農協は土日が休み。故障・修理に素早く対応できないため、農家は農協から農機を買わない。	
卸売市場	市場運営	市場流通では無条件委託販売が主流であり、生産者自らが生産原価や流通原価を十分把握できない。
		卸売市場(特に青果)では、小売価格からの逆算で価格が決定されている。小売店のバイイングパワー強化の中で生産者が価格決定に参画できない。また、販売規格も小売りからの指令に従っている。
		卸売市場に出荷する際の青果物規格は細かすぎて無駄が多い。
		卸売市場は、かつては1市場に複数の卸売業者が入っており、価格で競争する仕組みだったが、今はどの市場も1社で競争が起こらない。
	手数料体系	卸売市場の使用手数料は生産者が一方的に負担している。仕入れ業者にも負担させるべき。
		卸売市場の手数料率は、国による規制がなくなり自由化された後もほとんど変わっていない。昭和37年頃に果物が7%、野菜が8.5%と決まってから50年以上もそのままである。
		農家の側からすると、単位農協があり、県連があり、全農があり、さらに市場という合計4段階の-marginがとられていく仕組みとなっている。例えば九州の野菜を東京の市場で100円で売ったら農家の手取りは35円しかなく、資材費を引くとほぼゼロになってしまう。
市場外流通	市場外流通ではある程度生産者による価格決定が実現しているが、市場価格を参考に値付けされる場合が多い。	
	消費者の安全・鮮度に対する志向が強まり、ニーズが多様化している。卸売市場中心の出荷では価格形成できない。	
野菜価格安定制度	野菜価格安定制度について、対象者が出荷団体又は大規模生産者に限定されている上に、卸売市場への出荷が前提になっている。	

分類		内容
農協関係	販売力	農協に入入手数料は変わらないため、販売努力はしなくてよい。
	販売委託	農協が販売委託を受ける際、生産者に支払う概算金の額は内税だが、引き取った作物を外税で卸業者に売っている。
		販売委託する農家に農協が支払う概算金の額が実に不透明。かつて米が高いときは定率制で手数料を取っていたのに、米が安くなり始めた2009年ごろからは定額で取るようになった。米が1万円でも5000円でも、農協に入入手数料は一向に変わらない。
	農協に対する意識	農協の下に品目ごとに置かれる部会組織の中で、全量農協に出さないと首にするぞといった結構締めつけがある。農協ではなく部会がやったと言えはいいので、独禁法上は微妙に逃れている。
		農家にとって、農協が経営を管理してくれるのは便利な反面、いつまでも経営感覚が身につかず、価格がいくらかも分からない状況が続いてきている。それを変えようと農協から飛び出したが、補助金も出ず、普及員も来てくれない。そうした目に見えない圧力はやはりあり、大半の農家はつぶれてきている。
		農協が肥料の価格操作をしているわけではないが、肥料メーカーにとって一番の顧客は農協であり、気を使って価格を下げられない。
		安価なオリジナルの肥料を作ろうとメーカーに交渉したが、メーカー側は農協が怖くてとても作ってくれなかった。
農協が儲けたり締め付けたりしているというよりは、金融も扱っていて農業者側も便利だというのがある。		
全農があつて、全農の県本部があつて、単位農協がある。それぞれの段階で手数料をとるから、ものが高くなる。		
調達力	農協法のもとで独禁法の適用除外であるため、適正な競争が働かず、価格が下がらない。	
	今後1県1農協のような大型農協になっていくと思うが、何らかな競争が起こる仕組みがなければなかなか安くない。	
その他	政策	経営努力が可能で規模拡大が見込まれる平地の農業は産業政策として、採算が難しい中山間地農業は地域政策として、分けて考えるべき。
		今の高齢者が元気なうちに後継者を外部から入れて育てていくことが急務。いくつかの限界集落を1つにまとめて新規就農者への補助を手厚くするような仕組みが必要。
		これまでの政策は高米価政策で、生産量を落として相場を上げてきたが、輸出1兆円を目指すとなると、価格の高騰は流通業者に痛手となる。また、輸出志向の農場には何らかの支援策が必要。
		全農相対の価格と農協の概算金を参考に、手数料を加えたものが米の実態相場となっており、相場が上がっても米の量はだぶついているという不思議な状況。きちんとした市場が必要。
	企業の新規参入	規模拡大のために減価償却できない農地を我々農業者や農業法人が買い続けるのは難しく、企業や資本家の農業参入を進めないと将来が不安。一方で大企業が直接農業に参入してもうまくいった例はなく、現場の作業受託を我々農業界がやり、天候リスクと価格変動リスクは企業持ちで、我々は契約で作業するという事で収益確保するという姿が一番の可能性があるのではないか。
	農業融資	農地取得のために融資を受ける際、連帯保証人を求められ、代表者が保証人になっている。経営状態でやむを得ない場合もあるだろうが、法人の経営者を育てるためには連帯保証人はとるべきではない。
		小泉部会長が農林中金は要らないというような発言もされていたが、93兆円もの莫大な資産を抱えて、これが日本の農林水産業の融資のためになっているのか、もう一回見直してみるべき。
	農業使用	農薬・化学肥料の投入を前提とする施肥・防除基準からの転換を図るべき。
		オーガニック・エコ農業を拡大し、農薬・化学肥料の使用量を減少させるべき。
	生協	一部の生協もバイイングパワーを行使し、卸売市場使用量に見合う費用を産地に負担させるというようになってきた。それならば卸売市場を使ったほうが、24時間入金はしてくれるし、需給対応もしてくれるので楽だと思う。
米検査	米の品位検査(一等、二等、…)は玄米の状態で行われ、等級により買取価格に差があるが、精米になるとその表示がなくなる。生産者の検査経費と苦労は報われず、消費者にも等級差は見えない。また、等級による買取価格差が、害虫防除のための農薬の使用を助長している。	
	米の品位検査には水分の基準があり、15%が基準になっている。本当に米がおいしいのは15.5~16%で、乾燥機で14%台にしたあと、精米工場で加水して精米している。	
労働力	専業農家に農地を集約しようとする際、課題は労働力不足。外国人実習生の活用にも限界がある。	